様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 ２９ 日現在

機関番号：３４４１６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０２７９６

研究課題名（和文）上代日本語の語彙体系と意義記述方法の再構築

研究課題名（英文）Reconstruction of the method for the study of oldJapanese lexcon

研究代表者
乾　善彦（INUI, Yoshihiko）

関西大学・文学部・教授

研究者番号：３０１９３５６９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：『時代別国語大辞典　上代編』の全体を逐一見直すことによって、40年前に成立した本資料を現在の水準における基礎資料として利用するために、最新の研究成果に基づいて改訂する方法を提示した。『時代別』は「上代語概説」「辞書部分」「付録」「索引」からなるが、それぞれの逐一の検討と改定案の提示は、最新の上代語の研究方法を構築するための基礎資料のあり方を提示することでもあり、新たに付け加えられるべきことがらが、これからの基礎資料となることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
『時代別国語大辞典　上代編』は、各時代の共時辞書として画期的な事業であったが、現在までに、上代編と室町時代編の完成をみるのみである。しかも『上代編』が刊行されてすでに40年以上が経過している。この画期的な辞書を現在の水準に従って改訂することは、上代語研究の継承と展開を明らかにし、新たな方法を模索するための基礎資料の提示にもつながる。これからの研究の進展に資するところが大きいとともに、辞書の改訂という作業がもつ、研究方法的な意義を提示しえたと考えている。

研究成果の概要（英文）：We presented that we can get a new method for the study of Old Japanese lexcon with the reconsideration of all descriptions in "Jidaibetsu Kokugo Daijiten Jodaihen"(the dictionary of old Japanese in 7~8C period). We can rewrite this dictionary with contemporary level in the studing this branch, so we get new scene of the study of Old Japanese lexcon.

研究分野：日本語学

キーワード：『時代別国語大辞典　上代編』　辞書改訂　上代語　上代語資料

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

『時代別国語大辞典　上代編』（1967、三省堂、以下『時代別』と略称）は、「上代」という時代を区分した共時的な辞書として、また、「言語辞書」という編集方針によって上代日本語を体系的に記述したものとして、高い評価を受けてきたが、刊行後 40 年を経過し、木簡など新出資料の増大や研究の深化にともなって、現在の研究水準に即さない面が生じていた。また、古代語資料についても、テキストクリティークの厳密さや、複製技術の進展による既存資料の、より鮮明な複製など、各方面で研究が深化しており、さらに、木簡資料の増大は正倉院文書の再検討を促し、その結果、それまで記紀万葉が中心だった上代日本語とは異なり、下級官人たちの日常の言語生活の解明が進むなど、新たな知見が日々、次々に示されている。

しかしながら、本書は上代日本語を体系的に記述したものとして、画期的なものであることにはかわりなく、現在にいたるまで、上代の国語国文学を研究する際の基礎文献として、その信頼度は高い。そこで、その編集方針を活かしながらも、全面的にその記述を見直し、現在の日本語研究の水準で、上代日本語の語彙体系と意義記述の再構築を図る必要があった。

２．研究の目的

本研究の目的は、『時代別』の記述を、現在の日本語研究の水準で全面的に見直すことによって、上代日本語の語彙体系と意義記述の再構築を図るとともに、その方法を再検討し、これによって新たな上代日本語研究の基礎文献を提供するとともに、今後の上代日本語研究の方向性を提示しようとするものである。

３．研究の方法

『時代別』の見出し語すべてについて、用例を確認し、一語一語考証を加えることで、記述が適当であるかどうかを判断し、訂正を加える部分は訂正を加え、追加すべき事柄については、補注を加えることで、現在の研究水準に照らして適切な記述に改める。さらに、「上代語概説」をはじめとする付録についても、近年の研究成果を踏まえた記述を追加すると同時に、現在では不適切となった記述には、訂正や削除を行う。また、「万葉仮名一覧」については、木簡研究の成果を付け加えて、増補するとともに、テキストを最善のものに改めることで、一字一字の是非も検討する。さらに、索引は品詞別逆引き索引を加えて充実させる。

本研究の特色は、上代日本語の体系的記述に際して、『時代別』という既存の「言語辞典」を基礎とする点である。新たな記述には、新たな辞書、あるいは研究書の書き下ろしが考えられる。しかしながら、そういった方法をとらず、『時代別』の改訂によるのは、「学知の継承」を考えるからである。題目を「再構築」とするのは、この方法による。

４．研究成果

まず、『時代別』の全項目の検討を行った結果、おおむね、改訂すべき記述は以下のようなものであった。

①見出し語

見出し語のなかには、現在の水準からは、当該の語の存在がみとめられないものがある。たとえば、「いてりす」は、片仮名の「イテリス」の「イ」が「保」の人偏からの片仮名であったので、「ホテリス」が正しい。したがって、「いてりす」の項目は削除されることになる。このような場合には、見出し語を削除するのではなく、「空見出し」（からみだし）にして、

いてりす（照）　→　「ほてりす」を見よ。

とし、「ほてりす」の項目においてみとめられない理由を説明することで、『時代別』の時代的な価値が保存できる。同時に追加すべき見出し語についても、なぜ、発刊当時には見出し語として取られなかったのかを説明する。これによって、『時代別』の基礎文献としての価値が高まることになる。

また、上代特殊仮名遣いと清濁の表記については、最新の情報によって、できるだけ訂正するとともに、訂正した場合は、その理由を明示することで旧態を保持することに努める。

②語義

『時代別』では、語義の説明において、現代語に置き換える方法をとるので、同じ語で説明するものも多々あるが、これは『時代別』の方針なのでそのままとする。ただし、基本的な語で、たとえば、「思ふ」と「恋ふ」の場合、感情のもち方がどのように異なるかを説明することで、それぞれの語の意味に対する適切な解説となると考えた。そのような、情報を語義に追加することで、基礎語辞典の意味を持たせることができるので、この方針を付加する。

③用例

用例は、すべて原資料にあたりなおした上で、できるだけ最新の信用できるテキストに置き換える。ただし、活字資料を活用する場合は、それぞれの校訂態度を検討してかならずしも最新のものを採用するわけではない。

④【考】

項目末に置かれている【考】については、最新の情報を提供するとともに、以前の考え方との違いを明確にする。基本的には、旧情報を残し、新情報を追加する形式をとることで、『時代別』

の時代性も保持する。
⑤「上代語概説」「付録」
冒頭に置かれた「上代語概説」については、明らかな間違いは訂正し、最新の情報を提供するが、これも、注を加える形で、原態をできるかぎり保存する。付録については、やはり、最新の情報を追加する形で、原態を保存する。とくに、「万葉仮名一覧」では木簡の情報を付加する。「資料解説」ではデジタル公開されているURLと最新の複製情報を提供すると同時に、史料価値についての最新の情報も追加する。
⑦索引
現在、末尾に添えられている索引は、語彙資料としても利用価値の高いものとなっているが、これに、語末索引（逆引き索引）を付加することで、さらに『時代別』の語彙資料としての価値を高める。
既存の辞書の改訂方法を研究の中心としたことで、以上の成果を得たが、改訂結果の全体の公表には至らなかった。今年度以降、できるだけ早い時期に『時代別』の改訂版として公表する予定である。研究結果の公表に関しては、現在、ネット公開している「古代語のしるべ」（三省堂HP、https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/columncat/言語/古代語）と刊行物として内田賢徳・乾善彦編『万葉仮名と平仮名　その連続と不連続』（2019、三省堂）と科研報告書『『時代別国語大辞典上代編』語末索引稿・品詞別篇』（2020）がある。「古代語のしるべ」では、特定の語について、上記の個別改訂の実際を論じており、古代語の語義研究の方法について、資料の扱い等の新見を提示している。また、『万葉仮名と平仮名　その連続と不連続』では、古代語表記の仮名の特性とその記述方法の確認をおこない、平安時代の平仮名成立への連続面と不連続面について、問題を提起した。報告書の『『時代別国語大辞典上代編』語末索引稿・品詞別篇』は、語構成研究に資するところが期待できる逆引き索引を明らかにしたもので、本研究の、もっとも具体的な改定案の提示である。
以上によって、『時代別』を基にした上代語の記述的研究方法を提示した。これらは、今後の上代語研究のひとつの確実な方向性を示すものである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計19件（うち査読付論文　10件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 乾　善彦	４．巻 特別集
２．論文標題 万葉集巻十六と漢語	５．発行年 2018年
３．雑誌名 萬葉語文研究	６．最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 乾　善彦	４．巻 単行
２．論文標題 「万葉仮名」と『秋萩帖』	５．発行年 2018年
３．雑誌名 今野真二編『秋萩帖の総合的研究』（	６．最初と最後の頁 63-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 乾　善彦	４．巻 136
２．論文標題 『日本書紀』と「仮名」	５．発行年 2018年
３．雑誌名 大美和	６．最初と最後の頁 17-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 内田　賢徳	４．巻 特別集
２．論文標題 上代日本語の指示構造素描	５．発行年 2018年
３．雑誌名 萬葉語文研究	６．最初と最後の頁 123-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 蜂矢　真郷	4．巻 特別集
2．論文標題 ツル［釣・吊］とナム［並］	5．発行年 2018年
3．雑誌名 萬葉語文研究	6．最初と最後の頁 105-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 蜂矢　真郷	4．巻 38
2．論文標題 ヌク［脱］・ノク［除・退］	5．発行年 2019年
3．雑誌名 国語語彙史の研究	6．最初と最後の頁 109-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐野　宏	4．巻 単行
2．論文標題 仮名の成立について	5．発行年 2019年
3．雑誌名 乾・内田編『万葉仮名と平仮名ーその連続・不連続ー』	6．最初と最後の頁 175-203
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 尾山　慎	4．巻 特別集
2．論文標題 シニフィアンとシニフィエの関係から考える古代の〈訓字〉と〈仮名〉	5．発行年 2018年
3．雑誌名 萬葉語文研究	6．最初と最後の頁 57-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 乾善彦	4．巻 5
2．論文標題 万葉集テキストと注釈―仙覚と契沖の場合―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6．最初と最後の頁 51-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 尾山慎	4．巻 37-2
2．論文標題 日本の漢字研究	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本語学	6．最初と最後の頁 2-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 蜂矢真郷	4．巻 37
2．論文標題 サク［咲］・サカユ［栄］・サカル［盛］	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『国語語彙史の研究』	6．最初と最後の頁 135-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 乾善彦	4．巻 98
2．論文標題 万葉集と「仮名」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 美夫君志	6．最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 乾善彦	4．巻 単行
2．論文標題 古事記と「仮名」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 内田慶市編著『言語接触研究の最前線』	6．最初と最後の頁 71-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 乾善彦	4．巻 229
2．論文標題 林原美術館蔵『池田光政公御筆古筆写巻物』所収「万葉集切・綾地切」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 万葉	6．最初と最後の頁 43-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐野宏	4．巻 単行
2．論文標題 言霊の構造	5．発行年 2019年
3．雑誌名 毛利正守監修『上代学論叢』	6．最初と最後の頁 415－437
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 尾山慎	4．巻 単行
2．論文標題 〈漢語〉から考える日本語表記論―併せて文体論―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 毛利正守監修『上代学論叢』	6．最初と最後の頁 191－213
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 蜂矢真郷	4．巻 96－5
2．論文標題 上代を中心とするシク活用形容詞の語基・語幹	5．発行年 2019年
3．雑誌名 国語と国文学	6．最初と最後の頁 3－17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 蜂矢真郷	4．巻 39
2．論文標題 準独立的要素と情態的語基	5．発行年 2019年
3．雑誌名 万葉集研究	6．最初と最後の頁 45－72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 蜂矢真郷	4．巻 39
2．論文標題 シク［敷]・シク［領]・シク［及]・シク［頻]・シク［茂］	5．発行年 2020年
3．雑誌名 国語語彙史の研究	6．最初と最後の頁 137-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 乾　善彦
2．発表標題 万葉集と「仮名」
3．学会等名 美夫君志会（招待講演）
4．発表年 2018年

１．発表者名 蜂矢　真人
２．発表標題 上代を中心とするシク活用形容詞の語基と語幹
３．学会等名 国語語彙史研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 蜂矢真郷
２．発表標題 ツル［釣・吊］とナム［並］
３．学会等名 第78回中部日本・日本語学研究会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計2件

１．著者名 乾善彦・内田賢徳　編	４．発行年 2019年
２．出版社 三省堂	５．総ページ数 240
３．書名 『万葉仮名と平仮名ーその連続・不連続ー』	

１．著者名 尾山慎	４．発行年 2019年
２．出版社 和泉書院	５．総ページ数 500
３．書名 『二合仮名の研究』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

科研費報告書『『時代別国語大辞典上代編』語末索引稿・品詞別篇』2020年、全124頁
上代語研究会（乾善彦・蜂矢真郷・内田賢徳・佐野宏・尾山慎）編（蜂矢真郷編集担当）

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	蜂矢　真郷 (HACHIYA Masato) (20156350)	大阪大学・文学研究科・名誉教授 (14401)	
研究分担者	尾山　慎 (OYAMA Shin) (20535116)	奈良女子大学・人文科学系・准教授 (14602)	
研究分担者	佐野　宏 (SANO Hiroshi) (50352224)	京都大学・人間・環境学研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	内田　賢徳 (UCHIDA Masanori) (90122142)	京都大学・人間・環境学研究科・名誉教授 (14301)	